

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100518
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイのほほえみ松山
所在地	松山市余戸南4丁目4-2
自己評価作成日	平成22年12月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と地域の行事に参加することにより、地域の方々と少しずつ繋がりが深まり理解して下さる方が増えてきた。利用者が自分でできる喜びと安心して生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、理念にある「生きがいのある暮らし」を実践できるよう、利用者の誕生日には個々の馴染みの場所等に出かけることを計画し、取り組みをすすめておられる。生まれ育った場所にドライブに行かれたり、絵のお好きな方と美術館に行かれたり、ご家族も一緒に出かける等、個々の希望も聞きながら支援されている。事業所に職場の同僚の方が訪ねて来てくれることもある。

10月に行われた避難訓練は、消防団員である民生委員の方や町内会長にも参加いただき、利用者の誘導に協力していただいた。民生委員からは「鍋等を叩いて、音を出しながら、近隣住民に応援を求めているどうか」と、アドバイスをいただいた。最近、スプリンクラーと消防署への自動通報装置を設置されており、いざという時のために、レトルト食品や缶詰等、3日分程度の非常食の備蓄をされている。又、事業所では、地区の防災訓練や2ヶ月に1度の「防災ネットワーク会議」に「防災委員」の職員が参加されており、地域との相互協力体制作りにも取り組んでおられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ニチイのほほえみ松山

(ユニット名) すずらん

記入者(管理者)

氏名 松下 美保

評価完了日

2010年 12月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝、朝礼にて当社の理念をスタッフ全員で唱和している。ホームの理念「自分でできる喜びといきがいのある暮らし」安全で自立した障害への支援を行う。職員全員で理念を共有し、その人らしく生活が送れるよう支援している。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受け、7月に全職員が意見を出し合い、管理者とともに話し合って「自分でできる喜びといきがいのある暮らし」という事業所独自の理念を作成された。管理者は「利用者個々のできることを探して、最期まで喜びといきがいのある暮らしを支援していきたい」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運動会、盆踊り、秋祭り等地域での行事がある時は利用者の方と共に参加している。秋祭りの準備や地域防災会議への出席など、職員自身も地域の一員であることを自覚し積極的に参加している。	
			(外部評価) 事業所で毎年5月に開設を祝う行事「ほほえみ万博」を開催しておられ、今年は30名ほどの地域の方が来てくださった。ボランティアによるハワイアンバンドの演奏や琉球太鼓等も披露していただき、利用者も地域の方達とともに楽しまれた。地域の盆踊りには、6名の職員がハッピー姿で踊りの輪に参加し、半数ほどの利用者が見学に出かけられた。事業所の畑を広げた際には、近所の方から使用していない農具等をいただいた。クリスマス会には、踊りを披露して下さる地域の「八千代会」又、お琴のボランティアの方が来てくださる予定となっていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 一般の方向けの認知症サポーター養成講座の手伝いに参加し、地域の方の現状を知ると共に、認知症に対する理解や支援方法(各種連絡先の周知も含めた)を伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 新しい取り組みについて、多事業所などの情報や様々な角 度からの意見を頂き、サービスの向上に活かしている。災害 時の緊急避難場所の紹介もしていただいた。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長や民生委員、他グループホームからも 出席をいただいている。外部評価の結果を説明されたり、事 業所理念を作成した際には、作成の過程を説明されたり、 又、理念をどのように実践につなげていくか等説明し、意見 交換をされた。今年度の会議では、災害対策について意見 をいただくことが多く、会議時出された意見をもとに避難しや すいようにスロープを設けたり、裏庭に設けられていた柵を 外された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村窓口を訪問し情報を収集している。新しい取り組み、 対応に苦慮した場合は適宜相談しアドバイスを頂くようにし ている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催の認知症サポーター講座が公 民館で開催された際には、職員は「参加者から意見を聞く」 等、協力をされた。地域包括支援センターの方に事業所に 来ていただき、利用者が行う体操の方法を指導していただ いたこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム会議、ユニット会議で身体拘束、虐待について話し合 い理解してもらい身体拘束をしないケアを実践している。</p> <p>(外部評価) 事業所に「高齢者虐待防止委員」を設置して、ユニット会議 時等には、スピーチロック等について管理者は「聞いて不快 に思うことは、ことばの暴力に当たる」と説明して、事業所 の事例を用いて意見交換したり、知識等を勉強され、虐待や 身体拘束について全職員が正しく理解できるよう取組み されている。玄関は、センサーがついており、出入りするとチャイ ムが鳴るようになっていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム会議、ユニット会議で事例をあげて話し合い虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度概要の説明、申し立て手続きに関する専門機関や相談窓口の紹介を出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方の要望内容を聞き、当社に入居判定会を開いて決定する。詳細については、契約時に詳しく説明を行う。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム長、ユニットリーダーの位置づけがあり、随時相談できる体制を整えている。公的機関の窓口も契約時に説明している。 (外部評価) 通信担当の職員の異動等もあり、季節ごとに発行されていた事業所通信の発行が1年間遅れているようだ。ご家族の来訪時には、利用者の暮らし等を報告されているが、遠方で普段来訪が難しいご家族には、年1回の報告となる場合もあるようだ。運営推進会議の案内は、ご家族の来訪時に口頭でお願いされているが、参加していただける方は少なく、事業所独自でアンケートを取ってみられたが、協力いただけたご家族は少なかったようだ。	管理者は「ご本人の暮らしぶりを伝える手紙に写真を添えて家族に届けたい」と考えられていた。事業所からの情報提供については、ご家族の知りたい情報を提供できるよう工夫されてほしい。さらにご家族が事業所のケアサービスの具体を知ることに関心を持ってもらったり具体的な意見を聞けるよう、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ホーム会議、ユニット会議を開催し、スタッフの意見を取り入れる。又、研修等に職員が少しずつ参加しスキルアップ出来る様に参加している。	
			(外部評価)	
			管理者は「ホームは、みんなで作っていくもの」と考えておられ「地域密着推進委員」「防災委員」等、事業所の運営に関する職員の役割を決めて、各委員に所属する職員が中心となり、取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員個々の勤務状況を把握し面談を行うなどして意欲の向上に努めている。	
13		職員を育てる仕組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			ホーム会議、ユニット会議で勉強会を行っている。必要に応じて研修等にも参加している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他の事業所でのイベント等に参加し交流を深めている。又参考出来るものがあれば積極的に取り入れ利用者の方々への満足度、並びにサービスの向上を高めていく。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			不安なことや困っている事などを聞き安心できるように声掛け対応に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時に状況を報告したり家族と話し合う時間を設け家族が不安に思っていることを聞き安心していただけるように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族が必要としている支援を見極め、個々にあったサービスを提供する。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の出来ること出来ないことを理解した上で日々の生活で日課として出来ることをやっていただき、生きがいのある生活ができるように工夫している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お互いの立場を理解して上でよりよい関係が築けるよう配慮し支援する。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族・馴染みの人が面会に来られた時、職員がお茶を出したりし楽しくおしゃべりできる様にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、理念にある「生きがいのある暮らし」を実践できるよう、利用者の誕生日には個々の馴染みの場所等に出かけることを計画し、取り組みをすすめておられる。生まれ育った場所にドライブに行かれたり、絵のお好きな方と美術館に行かれたり、ご家族も一緒に出かける等、個々の希望も聞きながら支援されている。事業所に職場の同僚の方が訪ねて来てくれることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に食事をとったりお茶を飲んだり共有のスペースにテレビ等を置きコミュニケーションをとれるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近況についてゆっくりお伺いする時間を作る。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) (外部評価) 入居時に、ケアマネージャーがセンター方式の様式を用いて、ご本人にお聞きしたりご家族に「昔どんなことが好きだったか」等を聞く等して、ご本人の思いや意向の把握に努めておられる。ご本人の情報収集にも努めておられる。他の人がいる前では言い出せない利用者も、一人の時には思いを聞かせてくださることもあり、職員は「利用者の要望を聞く」ことを大切にして、個々の声に耳を傾けておられる。	9月にケアマネージャーの交代があったようだが、職員の内れ替わりがあっても、利用者個々の思いや意向等の情報を引き継ぐことができるような仕組みの充実が期待される。又、利用者個々の情報の共有にも努めていかれてほしい。「利用者のできることを続けられるような支援」に向けて、さらなる個々のアセスメントの充実が期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者とかかわる時間をできるだけ作り日々の会話の中から個々の情報を引き出しサービスに活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定、食事の摂取量、体重測定、排便の有無などの日々個々に記録し心身の状態を把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>各ユニットにて更新時、退院、状態変化の都度カンファレンスを行い入居者家族の要望を聞き入れて介護計画の作成を行っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>計画は、基本的に3ヶ月に1度モニタリングを行い、見直しをされている。入居直後は、2週間で見直しをされている。現在は、計画作成前に、ご本人・ご家族から意見をお聞きし、カンファレンスでケアマネージャーとユニットリーダー、職員が話し合い、計画を作成しておられる。ケアマネージャーの交代後、カンファレンスへのご家族参加が滞っているため、今後「ご家族参加のカンファレンスが行えるよう取り組んでいきたい」と考えておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>日々の個人記録、管理日誌の記録を行い申し送りにて結果気付きを伝え、日々のケアに活かすユニット会議等にて介護計画の見直しが必要になった時にスムーズに対応出来るように努めている。</p>	
			(自己評価)	
		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>福祉用具の等の提供相談を行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域における行事、お祭り等のスケジュールを貼り出し地域の方と一体になり又利用者の方にも喜んでいただけるように進んで参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 提携医と連絡をとり納得のいく対応が出来ている。	
			(外部評価) 入居時、かかりつけ医について話し合う際に「これまでのかかりつけ医を受診される場合は、ご家族に付き添いをお願いすること、又、「事業所で通院介助を行う場合は、協力医療機関で診てもらおうようになること」を説明して、決めてもらうようになっている。歯科は、訪問歯科が来てくださるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 提携医へ相談、必要に応じ職員が受診に同行し適切な看護を受けられようように支援している。訪問看護師が24時間緊急連絡体制により連絡・相談ができ必要に応じ訪問して頂き迅速な対応ができるようになった。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先への訪問により、状況把握を行い受け入れ準備を行っている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 提携医の指示を仰ぎながら家族との連絡を取り合い家族のおもい等を聞き入れている。又医療連携体制加算実施により終末期への体制を整えている。	
			(外部評価) 10月より、医療連携体制をとり「重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、ご家族等に利用者の終末期の支援についてや事業所で看取り支援が可能であることを説明された。最期まで看てもらえるということに、多くのご家族が安心されたようである。現在、ご本人・ご家族から「ここで居たい」との希望があり、終末期を過ごされている利用者がおられ、ご家族とも協力しながら支えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域の消防署への協力をお願いして応急手当の講習を行い、日頃から救急体制についての自己啓発を促す様にしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。利用者の歩行能力低下、体調不良にはその状態に合わせた避難方法を考え利用者が避難出来る様に努めている。又、ホーム内防災委員を中心に月1回の自主訓練を計画している。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施されている。10月に行われた避難訓練は、早朝7時に1階から出火したことを想定し行っておられ、消防団員である民生委員の方や町内会長にも参加いただき、利用者の誘導に協力していただいた。民生委員からは「鍋等を叩いて、音を出しながら、近隣住民に応援を求めているどうか」と、アドバイスをいただいた。最近、スプリンクラーと消防署への自動通報装置を設置されており、いざという時のために、レトルト食品や缶詰等、3日分程度の非常食の備蓄をされている。又、事業所では、地区の防災訓練や2ヶ月に1度の「防災ネットワーク会議」に「防災委員」の職員が参加されており、地域との相互協力体制作りにも取り組んでおられる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴時における利用者の方の羞恥心に対する配慮、又明るい笑顔での対応、ハキハキとした言葉遣い、常に利用者様一人一人を尊重した接し方を心掛けている。	
			(外部評価) 管理者はこの1年、職員の利用者へのかかわり方等について、まず「利用者目線と目線を合わせる」ことを職員に指導して来られた。利用者とお話する時に職員は、椅子を持って来られ、座って目線を利用者に合わせてお話をすることを心掛けられた。利用者が手を振ると、職員もそれに応じて笑顔で手を振り返しているような場面も見られた。居間からトイレの出入りが見えるが、入り口にのれんを掛けたり、脱衣室側の出入り口を使う等配慮されていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の一言一句、行動や態度に気を配り利用者様が何を一番望んでおられるのかを理解してケアにあたる様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自己決定、選択できるよう何事でも利用者様の意思を確認 することに努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 美容室の利用やホームへの訪問理容サービス等本人の希 望に沿うように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 声掛けし出来ることは手伝っていただき少しでも参加出来る よう支援している。職員が利用者と同じものを食べる機会を 作り同じものを食べながら共に楽しむようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者が玉子を割って、茶碗蒸しの準備をされ たり、おかずの盛り付けをする様子がかがえた。献立は、 冷蔵庫の食材を見て、利用者と一緒に相談しながら決めておられ る。事業所では「おかずは3品は作る」ようにされており、利 用者同士「これ美味しいよ。食べてみて」等と、会話しながら 食事をされていた。職員は、利用者と同じものを食べたり、お 弁当を持参する職員もあるが、お弁当も利用者と一緒に食 べるようにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分補給、献立等個々に記録を管理し支援 している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後にひとり一人声掛けし行っていただけるように努めて いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介助の必要な方、車椅子の方も個々の体調、その日の気分等に配慮しながらトイレ誘導しトイレに座り排泄できるように支援を行っている。 (外部評価) 入院中、紙おむつを使用されていた方もあったが、事業所ではご本人の様子を見ながら、自立に向けた支援がご本人の負担にならないように考慮して、取り組みをすすめておられる。リハビリパンツを使用してトイレ誘導されたり、夜間は紙パンツを使用している方も、昼間は、布パンツを使用して、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日のラジオ体操、手足の運動を毎日呼びかけている。水分補給の声掛け、便秘の原因となる薬の同時服薬は避け時間をあけて服用している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる環境を整え、利用者の希望に出来るだけあわせて入浴できるように努めている。 (外部評価) 基本的に利用者個々に週2回入浴できるよう支援されているが、お風呂がお好きな方は毎日入浴できるよう支援されたり、仲のよい利用者同士で入浴されることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に合わせて休息できるよう努めている。利用者の生活習慣に出来る限り合わせた就寝時間になるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフひとり一人が、お薬の情報に目を通し確認するよう心掛けています。服薬セット時に二人で確認する様に取り決めています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様が何を望んでおられるのか、又利用者様は何をすれば喜ばれるのかという事を常日頃から細かく注意し、書きとめておき、各利用者様に合った支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換にもなり、精神的にも穏やかな感情が生まれるので出来るだけ太陽の下、自然の中へ出かけて行く。プランを立てて近隣、遠出にあわせて計画実行している。	現在、全国にある法人グループホームは全体で「職員の運転する車に利用者を乗せない」ことになっており、利用者との外出時は、タクシーを利用されている。現在は、ちょっとした気分転換のドライブや買い物等に利用者が出かけることが難しい現状であり、職員は「利用者が外出する機会が少ない」と感じておられる。外出を楽しみにされている利用者も多く、今後も法人との話し合いを重ねて、安全を守り、利用者がドライブ等を楽しめたり外出を楽しめる機会を増やせるよう働きかけてほしい。又、事業所の周辺でも、利用者が楽しめるような場所の開拓をすすめ、利用者個々の楽しみや生活の拡がりを支援していかれてほしい。
			(外部評価) 歩いて近くのコンビニにおやつを買いに行かれることもある。11月には、奥道後の送迎バスを利用して奥道後の菊花展に利用者全員で出かけられた。季節や天気の良い時にはウッドデッキに出て、おやつを楽しまれたり、畑仕事のお好きな方には、庭の畑の草引きや世話をさせていただき、利用者ができるだけ外気に触れることができるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預かりしているおこずかいから個々に応じて対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様が電話をかけたい時は自由にかかけられるよう支援している。必要に応じ手紙、葉書きの代筆をしやり取りができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	リビングに季節感を採り入れた装飾を行っている。テレビなども利用者様全体を考慮して、音量が大きくなりすぎないようにしている。	
			(外部評価)		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	和室を利用したり廊下に椅子を設けて活用している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	本人の使い慣れた家具を置いたり好きな絵を貼ったり、花等を置いている。	
			(外部評価)		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	浴槽手すりの数や車椅子用トイレ等、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。各部屋に表札を準備、トイレ等にも目印になるものがあり混乱や失敗を防いでいる。	